

最先端研究開発支援プログラム
各研究課題に対する研究費総額とその理由

研究課題	複雑系数理モデル学の基礎理論構築とその分野横断的科学技术応用		
中心研究者氏名	合原一幸		
中心研究者所属	国立大学法人 東京大学		
研究支援担当機関	独立行政法人 科学技術振興機構		
主担当議員	相澤益男	副担当議員	奥村直樹

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	268,972 万円	161,383 万円	161,383 万円
間接経費	経費 B	29,616 万円	- 万円	17,770 万円
	経費 C	24,178 万円	- 万円	14,507 万円
合計		322,766 万円	- 万円	193,660 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ 1	61,790 万円	37,074 万円	37,074 万円
サブテーマ 2	76,415 万円	45,849 万円	45,849 万円
サブテーマ 3	130,767 万円	78,460 万円	78,460 万円
合計	268,972 万円	161,383 万円	161,383 万円

査定理由
○ 直接経費について - 本研究課題は複雑系数理モデル学を確立し、生命科学、情報科学、医学、社会科学等様々な分野に応用し、適用例としては前立腺がんの治療、新型インフルエンザの感染伝播対策など多岐に渡っており、新しい研究分野として評価できる。 - しかしながら、研究テーマ自身、集中的かつ大規模に資金を投入するというものではなく、継続的に推進すべきものと考えられる(提案も環境整備に予算の重点がおかれている)。 - また、分担研究者のエフォート率が総じて低いことから、人的資源を絞り込むことで人件費の圧縮や、計算機器等の購入費、旅費などかなりの予算額が削減可能と判断した。 ○ 間接経費について - 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	免疫ダイナミズムの統合的理解と免疫制御法の確立		
中心研究者氏名	審良 静男		
中心研究者所属	国立大学法人 大阪大学		
研究支援担当機関	国立大学法人 大阪大学		
主担当議員	本庶 佑	副担当議員	白石 隆

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	300,000 万円	210,000 万円	210,000 万円
間接経費	経費 B	39,080 万円	- 万円	27,356 万円
	経費 C	20,920 万円	- 万円	14,644 万円
合計		360,000 万円	- 万円	252,000 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ 1	207,200 万円	165,000 万円	165,000 万円
サブテーマ 2	11,200 万円	0 万円	0 万円
サブテーマ 3	11,200 万円	0 万円	0 万円
サブテーマ 4	11,200 万円	0 万円	0 万円
サブテーマ 5	11,200 万円	7,000 万円	7,000 万円
サブテーマ 6	12,000 万円	10,000 万円	10,000 万円
サブテーマ 7	8,000 万円	6,000 万円	6,000 万円
サブテーマ 8	14,000 万円	14,000 万円	14,000 万円
サブテーマ 9	14,000 万円	8,000 万円	8,000 万円
合計	300,000 万円	210,000 万円	210,000 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ サブテーマ2、3、4については、本研究課題の目的とは密接に関連しないテーマであり、その分、中心研究者本人の行うサブテーマ1の配分を相対的に増やす事が適切である。それ以外のサブテーマ設定及び要求額は概ね適切であり、節約以外に大きく査定する要素はないと考えた。 ○ サブテーマ2、3、4について ・ 本研究テーマの目的とは密接に関係しないテーマであり、認めないことが適切である。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	スーパー有機ELデバイスとその革新的材料への挑戦		
中心研究者氏名	安達 千波矢		
中心研究者所属	国立大学法人 九州大学		
研究支援担当機関	国立大学法人 九州大学		
主担当議員	奥村直樹	副担当議員	白石隆

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	416,666 万円	270,000 万円	270,000 万円
間接経費	経費 B	43,081 万円	- 万円	27,917 万円
	経費 C	40,252 万円	- 万円	26,083 万円
合計		499,999 万円	- 万円	324,000 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ1	146,731 万円	124,000 万円	124,000 万円
サブテーマ2	47,312 万円	20,000 万円	20,000 万円
サブテーマ3	69,060 万円	40,000 万円	40,000 万円
サブテーマ4	69,305 万円	44,000 万円	44,000 万円
サブテーマ5	46,218 万円	20,000 万円	20,000 万円
サブテーマ6	8,000 万円	5,000 万円	5,000 万円
サブテーマ7	6,500 万円	3,000 万円	3,000 万円
サブテーマ8	3,640 万円	3,000 万円	3,000 万円
サブテーマ9	8,000 万円	5,000 万円	5,000 万円
サブテーマ10	11,900 万円	6,000 万円	6,000 万円
合計	416,666 万円	270,000 万円	270,000 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ 既存の技術の良いところも用いて、実用に耐える大型有機ディスプレイを得ることができれば成功といえるため、研究範囲について多少削減する。 ・ 4年間という短い研究期間を考えれば、基礎研究主体として位置づけて、科学的に最も重要で得意な分野に特化して研究を遂行することが好ましい。 ・ 中心研究者が研究に集中できる規模で実施する方が、全体として高い成果を得られる可能性が高い。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	フォトンクス・エレクトロニクス融合システム基盤技術開発		
中心研究者氏名	荒川泰彦		
中心研究者所属	国立大学法人 東京大学		
研究支援担当機関	技術研究組合 光電子融合基盤技術研究所		
主担当議員	相澤益男	副担当議員	奥村直樹

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	416,667 万円	325,000 万円	325,000 万円
間接経費	経費 B	58,892 万円	- 万円	45,936 万円
	経費 C	24,350 万円	- 万円	18,993 万円
合計		499,909 万円	- 万円	389,929 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ1	283,327 万円	220,995 万円	220,995 万円
サブテーマ2	133,340 万円	104,005 万円	104,005 万円
合計	416,667 万円	325,000 万円	325,000 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ 本研究課題は、半導体産業分野における次世代を担う重要なテーマであり、多くの民間企業が研究分担者として参画しているのが特徴となっている。 ・ 中心研究者は、科学技術振興調整費先端融合領域イノベーション創出拠点プログラムのリーダーであり、研究内容としては切り分けを行っているが、双方共通で利用可能な装置類も多いと思われ、分析評価装置や旅費などの予算が圧縮可能と考えられる。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	マイクロシステム融合研究開発		
中心研究者氏名	江刺正喜		
中心研究者所属	国立大学法人 東北大学		
研究支援担当機関	国立大学法人 東北大学		
主担当議員	奥村直樹	副担当議員	相澤益男

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	425,832 万円	262,916 万円	262,916 万円
間接経費	経費 B	21,352 万円	- 万円	13,183 万円
	経費 C	52,816 万円	- 万円	32,610 万円
合計		500,000 万円	- 万円	308,709 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ1	54,000 万円	54,000 万円	54,000 万円
サブテーマ2	508 万円	508 万円	508 万円
サブテーマ3	83,500 万円	25,108 万円	25,108 万円
サブテーマ4	80,000 万円	8,000 万円	8,000 万円
サブテーマ5	94,982 万円	85,300 万円	85,300 万円
サブテーマ6	93,265 万円	90,000 万円	90,000 万円
サブテーマ7	19,577 万円	0 万円	0 万円
合計	425,832 万円	262,916 万円	262,916 万円

査定理由
○ 直接経費について - 半導体集積回路の高付加価値化を担うマイクロシステム(MEMS)は、社会で用いられる様々な装置・システムの中核機能を支配する重要な技術な技術であり、本研究開発への期待は大きい。 - 本プログラムの内容については、科学技術振興調整費先端融合領域イノベーション創出拠点の研究開発内容と重複している部分が見受けられ、その部分は予算の削減が可能と考えた。 ○ 間接経費について - 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	省エネルギー・スピントロニクス論理集積回路の研究開発		
中心研究者氏名	大野英男		
中心研究者所属	国立大学法人 東北大学		
研究支援担当機関	国立大学法人 東北大学		
主担当議員	相澤益男	副担当議員	奥村直樹

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	435,000 万円	278,400 万円	278,400 万円
間接経費	経費 B	21,912 万円	- 万円	14,024 万円
	経費 C	43,088 万円	- 万円	27,576 万円
合計		500,000 万円	- 万円	320,000 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ1	435,000 万円	278,400 万円	278,400 万円
合計	435,000 万円	278,400 万円	278,400 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ 本研究課題は、スピントロニクスの不揮発性メモリにおいて、新たな論理回路システムの構築を目指す野心的なものである。 ・ しかしながら、システムアーキテクチャに係る検討が十分ではないという危惧もあり、システムアーキテクチャにまで影響する試作例を示すことに目標の重点を置くことで、研究計画を先鋭化することが可能と考えた。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	再生医療産業化に向けたシステムインテグレーションー臓器ファクトリーの創生ー		
中心研究者氏名	岡野 光夫		
中心研究者所属	学校法人 東京女子医科大学		
研究支援担当機関	独立行政法人 科学技術振興機構		
主担当議員	相澤 益男	副担当議員	本庶 佑

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	416,667 万円	281,980 万円	281,980 万円
間接経費	経費 B	41,667 万円	- 万円	28,198 万円
	経費 C	41,666 万円	- 万円	28,187 万円
合計		500,000 万円	- 万円	338,375 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ 1	416,667 万円	281,980 万円	281,980 万円
合計	416,667 万円	281,980 万円	281,980 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ 組織ファクトリーについては、GMP(Good Manufacturing Practice)を確立して推進すべきで、成果が期待できる。臓器ファクトリーについては、長期的目標にたって、ファクトリー化のための基礎的研究に集中すべきである。 ・ これまでの実績から、適切なマネジメントにより、旅費、謝金、人件費等については、大幅な削減が可能であると判断した。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	心を生み出す神経基盤の遺伝学的解析の戦略的展開		
中心研究者氏名	岡野 栄之		
中心研究者所属	学校法人 慶應義塾大学		
研究支援担当機関	独立行政法人 理化学研究所		
主担当議員	本庶 佑	副担当議員	白石 隆

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	416,666 万円	255,666 万円	255,666 万円
間接経費	経費 B	41,667 万円	- 万円	25,567 万円
	経費 C	41,667 万円	- 万円	25,566 万円
合計		500,000 万円	- 万円	306,799 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ1	150,336 万円	150,336 万円	150,336 万円
サブテーマ2	105,330 万円	105,330 万円	105,330 万円
サブテーマ3	161,000 万円	0 万円	0 万円
合計	416,666 万円	255,666 万円	255,666 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ サブテーマ3の研究対象(動物)は、中心研究者率いるサブテーマ1及びサブテーマ2と大きく異なり、研究終了時までに研究成果を得ることは困難である。このサブテーマ3に対して、減額して一部の研究を行わせることも考えられるが、中心研究者のエフォートを中心となる研究に集中させるためにも、これを認めないことが望ましい。 ・ なお、各サブテーマの要求額は適切であり、効率化出来る要素はないと判断した。 ○ サブテーマ1, 2について ・ 要求額通りとする。 ○ サブテーマ3について ・ サブテーマ1、2との乖離が大きいいため、本研究課題より削除することが適切と判断する。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	ナノバイオテクノロジーが先導する診断・治療イノベーション		
中心研究者氏名	片岡 一則		
中心研究者所属	国立大学法人 東京大学		
研究支援担当機関	独立行政法人 科学技術振興機構		
主担当議員	相澤 益男	副担当議員	本庶 佑

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	416,948 万円	284,651 万円	284,651 万円
間接経費	経費 B	41,667 万円	- 万円	28,446 万円
	経費 C	41,385 万円	- 万円	28,446 万円
合計		500,000 万円	- 万円	341,543 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ 1	75,004 万円	22,501 万円	22,501 万円
サブテーマ2	208,108 万円	176,893 万円	176,893 万円
サブテーマ3	97,484 万円	77,987 万円	77,987 万円
サブテーマ4	26,352 万円	7,270 万円	7,270 万円
合計	416,948 万円	284,651 万円	284,651 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ サブテーマ4については、骨再生に関する研究が全体計画から乖離している。 ・ 軟部組織再建用インプラントデバイスに集中すべきであり、経費の削減が適切である。 ・ 新規性・実現可能性ともに優れているサブテーマ2及び3を重点的に支援すべきである。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	1分子解析技術を基盤とした革新ナノバイオデバイスの開発研究 —超高速単分子 DNA シークエンシング、超低濃度ウイルス検知、 極限生体分子モニタリングの実現—		
中心研究者氏名	川合 知二		
中心研究者所属	国立大学法人 大阪大学		
研究支援担当機関	国立大学法人 大阪大学		
主担当議員	奥村直樹	副担当議員	白石隆

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	417,086 万円	240,000 万円	240,000 万円
間接経費	経費 B	51,412 万円	- 万円	29,584 万円
	経費 C	31,500 万円	- 万円	18,126 万円
合計		499,998 万円	- 万円	287,709 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ1	166,021 万円	96,000 万円	96,000 万円
サブテーマ2	83,800 万円	48,000 万円	48,000 万円
サブテーマ3	42,200 万円	24,000 万円	24,000 万円
サブテーマ4	41,666 万円	24,000 万円	24,000 万円
サブテーマ5	41,642 万円	24,000 万円	24,000 万円
サブテーマ6	41,757 万円	24,000 万円	24,000 万円
合計	417,086 万円	240,000 万円	240,000 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ 本研究課題は極めて挑戦的な課題解決を目指しているが、本プログラムの予算規模からすると、全ての研究目標を達成することは困難と予見されるため、より重点化することが望ましい。 ・ 各独立機関が集合した研究体制であること及び申請内容では購入予定の装置・物品が多種多額になっているため、各サブテーマについてほぼ一定割合で削減する。この削減した予算内で、研究開発の最適化が可能と考える。 ・ 旅費や人件費についても削減余地がある。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	超巨大データベース時代に向けた最高速データベースエンジンの開発と当該エンジンを核とする戦略的サービスの実証・評価		
中心研究者氏名	喜連川優		
中心研究者所属	国立大学法人 東京大学		
研究支援担当機関	国立大学法人 東京大学		
主担当議員	相澤益男	副担当議員	奥村直樹

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	416,682 万円	333,346 万円	333,346 万円
間接経費	経費 B	42,309 万円	- 万円	31,229 万円
	経費 C	41,009 万円	- 万円	30,269 万円
合計		500,000 万円	- 万円	394,844 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ1	373,266 万円	298,613 万円	298,613 万円
サブテーマ2	43,416 万円	34,733 万円	34,733 万円
合計	416,682 万円	333,346 万円	333,346 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ 本研究課題は、ペタバイト領域を可能とする高速データベースエンジンの開発を目的とするもので、日本の情報通信処理産業の発展に大きく貢献するものである。 ・ 今回再提出された研究計画については、予算の削減を受けて、研究目標や参加メンバーなどしっかり検討され、改めて練り直されている。 ・ 研究目標については 1,000 倍の性能向上を目指しており、更なる予算削減を行うと、その維持は難しくなるものと推定されるが、研究開発の推進に致命的な影響とはならないものと思われる。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、各研究課題に対する研究支援担当機関の状況を踏まえた適切な金額とする。

研究課題	低炭素社会創成へ向けた炭化珪素(SiC)革新パワーエレクトロニクスの研究開発		
中心研究者氏名	木本 恒暢		
中心研究者所属	国立大学法人 京都大学		
研究支援担当機関	独立行政法人 産業技術総合研究所		
主担当議員	奥村直樹	副担当議員	白石隆

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	415,881 万円	290,000 万円	290,000 万円
間接経費	経費 B	20,793 万円	- 万円	14,499 万円
	経費 C	62,382 万円	- 万円	43,500 万円
合計		499,056 万円	- 万円	347,999 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ1	113,827 万円	82,000 万円	82,000 万円
サブテーマ2	130,999 万円	93,000 万円	93,000 万円
サブテーマ3	171,055 万円	115,000 万円	115,000 万円
合計	415,881 万円	290,000 万円	290,000 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ 本研究課題はエレクトロニクス機器の大幅な省エネ化を可能とする、SiC を用いた新たなパワーエレクトロニクスの構築を目指すものであり、研究成果への期待は大きい。 ・ 3つのサブテーマから構成されており、それぞれが本テーマの達成に必須である。 ・ サブテーマごとに複数の研究機関が集合していることから、連携・相互融通などを行うことで、予算を効率化することが可能である。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	Mega-ton Water System		
中心研究者氏名	栗原優		
中心研究者所属	東レ 株式会社		
研究支援担当機関	独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構		
主担当議員	奥村直樹	副担当議員	相澤益男

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	437,200 万円	257,320 万円	257,320 万円
間接経費	経費 B	11,961 万円	- 万円	7,040 万円
	経費 C	47,626 万円	- 万円	28,031 万円
合計		496,787 万円	- 万円	292,391 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ1	113,220 万円	81,634 万円	81,634 万円
サブテーマ2	16,460 万円	8,000 万円	8,000 万円
サブテーマ3	50,021 万円	38,000 万円	38,000 万円
サブテーマ4	20,000 万円	14,000 万円	14,000 万円
サブテーマ5	26,820 万円	25,000 万円	25,000 万円
サブテーマ6	100,000 万円	32,000 万円	32,000 万円
サブテーマ7	50,000 万円	25,000 万円	25,000 万円
サブテーマ8	49,993 万円	25,000 万円	25,000 万円
サブテーマ9	10,686 万円	8,686 万円	8,686 万円
合計	437,200 万円	257,320 万円	257,320 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ 水問題は、現在及び将来とも極めて重要な課題であり、本研究課題が取り組む大規模淡水化技術は、その要と期待されている。 ・ モデルプラント製造等が含まれるため、全体的に研究費が大型となるのは理解できるが、既存施設の有効利用や、共有化等により工夫することで、予算の効率化は可能と思われる。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	世界最速プラスチック光ファイバーと高精細・大画面ディスプレイのためのフォトニクスポリマーが築く Face-to-Face コミュニケーション産業の創出		
中心研究者氏名	小池 康博		
中心研究者所属	学校法人 慶應義塾大学		
研究支援担当機関	学校法人 慶應義塾大学		
主担当議員	奥村直樹	副担当議員	白石隆

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	428,425 万円	345,000 万円	345,000 万円
間接経費	経費 B	34,052 万円	- 万円	27,421 万円
	経費 C	37,448 万円	- 万円	30,156 万円
合計		499,925 万円	- 万円	402,577 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ1	165,789 万円	142,000 万円	142,000 万円
サブテーマ2	178,462 万円	155,000 万円	155,000 万円
サブテーマ3	84,174 万円	48,000 万円	48,000 万円
合計	428,425 万円	345,000 万円	345,000 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ 3つのサブテーマに優先順位をつけた結果、「世界最速プラスチック光ファイバーの開発」は必要不可欠である。また、「高精細・大画面ディスプレイのためのフォトニクスポリマーの開発」は液晶産業にとって重要な課題であることから推進すべきと判断した。 ・ 一方、「コミュニケーションシステム開発」は、予算対比の有意義な成果が得られるとは判断しがたいため、削減した。しかしながら、予算があれば十分に投資したい。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。

研究課題	がんの再発・転移を治療する多機能な分子設計抗体の実用化		
中心研究者氏名	児玉 龍彦		
中心研究者所属	国立大学法人 東京大学		
研究支援担当機関	分子動力学抗体創薬技術研究組合		
主担当議員	本庶 佑	副担当議員	白石 隆

研究費総額		再提出額	担当議員案	査定額
直接経費	経費 A	435,036 万円	250,200 万円	250,200 万円
間接経費	経費 B	21,460 万円	- 万円	12,342 万円
	経費 C	43,503 万円	- 万円	25,020 万円
合計		500,000 万円	- 万円	287,562 万円

	再提出額	担当議員案	査定額
サブテーマ1	121,056 万円	69,600 万円	69,600 万円
サブテーマ2	41,899 万円	24,100 万円	24,100 万円
サブテーマ3	36,756 万円	21,100 万円	21,100 万円
サブテーマ4	138,643 万円	79,700 万円	79,700 万円
サブテーマ5	41,317 万円	23,800 万円	23,800 万円
サブテーマ6	15,602 万円	9,000 万円	9,000 万円
サブテーマ7	39,763 万円	22,900 万円	22,900 万円
合計	435,036 万円	250,200 万円	250,200 万円

査定理由
○ 直接経費について ・ コンピュータを活用した抗体の分子設計法の確立が、本研究目標の達成に必須であるが、この技術の実現性に対する懸念が排除できないことから、その分をサブテーマ6より減額すべきと考える。 ・ 一方、本研究は、候補物質を各サブテーマで順に解析するサイクルとなっているため、特定のサブテーマを認めない事にはなじまない。そのため、解析するサイクル数を減少させることを念頭に、一律の減額を行うこととする。 ○ サブテーマ6について ・ サブテーマ6において行われるコンピュータを活用した抗体の分子設計法のためのコンピュータに係る経費を減額する。 ○ 間接経費について ・ 研究開発支援及び研究環境改善に関する経費については、中心研究者が再提出時に示した経費 A・B・C の比率を乗じて算出された額とする。